長洲町立長洲小学校　校長便り　No.５７

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年１２月１２日(月)

１２月１６日(金)午前１１時～本校体育館　PTA主催教育講演会「ネット社会をかしこく生きるために」
講師　真和中学・高等学校専任講師　戸田　俊文　先生

【雑感】教え子達に学ぶ

我々教師の職業は非常に特殊です。大学まで教育を受ける側として現場にいたかと思うと、教員採用試験に合格すれば今度は先生として現場にいる訳ですから、世間知らずのボンボンな訳です。私にも経験があります。大学を卒業してすぐ、臨時採用の講師として龍田小学校に勤務した時のこと、甘さが残る私は、宴会に平気で遅刻してしまいました。私は大事に考えなかったので、後で学年主任にこっぴどく叱られました。教職の現場に限らず、ルーキーにはこのようなことがあります。しかし、ルーキーだからと言って許されないことがあるのも事実ですね。

私の教え子に医者が３名います。このうちの１人とこんな話をしたことがあります。この子は熊本市内の病院の呼吸器内科に勤務し、現場で人と向き合うことに対してある種の「厳しさ」を体で学んでいました。

「澤田先生、医者の仕事って教師と一緒で、責任が重いですね。最近肺がんの患者さんと話すことがあって、手術が難しい患者さんだったんだけど、その患者さんが内科治療に望みを託す訳ですよ。そして、私の様な若造に『先生にお任せします。』って仰るんです。私、ある意味恐怖を感じました。医者としての責任の重さってこれなんだって。」

私は偉そうにこう言ってやりました。

「そうだ、やっと分かったか。患者さんは命をお前に預けるんだ。患者さんの人生に責任を持つという覚悟で向き合わなんいかん。俺は、教職人生、失敗や後悔の連続だけど、その時最善と思われる選択をして、精いっぱいやってきた。『人事を尽くして天命を待つ』という感じだ。今でも教え子達のアフターサービスは欠かしてないぞ。お前も含めてな。お蔭で楽しい教師生活だけど。」

医師は患者さんの辛さに向き合い、治療によって回復という結果を出します。しかし、教師の仕事は結果が、１０年先２０年先にしか検証できません。しかも数値での検証が難しいです。教師の求められるものはテストの点数だけではありませんからね。

医師も教師も、目の前の人間に責任を持たねばならないことは言うまでもありません。教師は他の職業と比較すると、少々先の将来を見越した仕事をしないといけないのですね。医師は「そこまで私にはできません。どうすればいいのですか?」とは言いません。教師もそうだと私は思います。新米教師だろうがベテラン教師だろうが、目の前の課題に正対し、出来ることを徹底的に探り、徹底的に遂行することが、プロとしての責務だと私は考えています。

すっかり面倒くさい話になってしまいました。人生の質（ＱＯＬ）を高めるために、また、後悔しないように「初心」と「プロ意識」を忘れないようにしていきたいです。

シリーズ「自分を語る」#57

前回は指のけがの話でした。続きまして、今回は病気です。

平成１４年度、そのまま持ち上がりのクラスでの担任をさせて頂くことになり、その年も順調に行事を実施し、多くの思い出を作りながら時間が過ぎていました。

そんなある日のことです。充実している時、子供の成長を感じている時、教師はあまりストレスや負担感は感じないものです。私もそのような状態だったのではないかと、今になってみれば思います。精神的なストレスは感じていなかったのですが、肉体的なストレスが無意識のうちに私の体を蝕んでいっていたようなのです。

１１月の終わり頃だったと思います。その日の夜中の２時頃、私は強烈な吐き気に襲われ、目を覚ましました。そして急いでトイレに駆け込み、吐きました。（この辺りはあまりきれいな作文ができませんのでご了承ください。）その日に食べたものは全て吐き出したと思います。吐きながら「今日何か悪いもの食べたっけ…?」と考えてみますが、中々思いつきません。強いて挙げるならば、風邪予防にと他の職員も食べた「金柑の甘露煮」でした。しかし、他の職員はそんな反応がありませんでしたので、原因としては考えられません。

そんなことを考えているうちに、また吐き気がしてきました。トイレと布団を往復する時間が３時間ほど続きました。１１月とは言え夜中は冷え込んでいて、体が冷えてきました。吐き気が治まらないので、とうとう朝まで眠られませんでした。朝、辺りが明るくなってきた頃、嘔吐物の色を見てびっくりしました。何と、濃い緑色だったのです。その日は朝からお休みを頂いて病院へ行くのですが、受診の仕方も普通ではありませんでした。あまりに吐き気がひどいので、受け付け開始前に電話をして、裏口から入れてもらっての受診でした。熊本市新町にある「服部胃腸科」という病院です。中に入れてもらってすぐに点滴をしてくださいました。吐き気止めと栄養分と仰っていました。枕元に洗面器とティッシュが置かれ、たまに「オエッ」とやりながら、先生がいらっしゃるのを待ちました。その間も吐き気は治まらず、たまに緑色のものが出ては、唾液を吐きの繰り返しでした。あまりに痛みと吐き気が辛いので、ベッド上で体を丸めて目を閉じ、ただひたすら耐えるだけでした。

そうこうしているうちに、先生がいらっしゃって問診開始です。先生の質問に答えるのも一苦労で、「ウ～ッ」と唸りながら答えるような状態でした。昨日食べた物、ストレス、これまでの事…。自己診断としては「胃潰瘍かな?」とは思っていたものの、その頃の仕事は非常に充実していたし、精神的なストレスは感じていませんでしたので、何か悪い病気なのかなと不安な気持ちもありました。そしてお医者様がおっしゃいました。「今日は何も食べていませんね。まずは胃の内視鏡検査を受けて頂きます。」てなわけで、内視鏡検査開始です。看護師さんが「眠くなる注射をしますね。」と言って、点滴の脇からある注射をされました。それと同時に「大きく深呼吸をしていてください。」言われるままにしていると、あっという間に眠ってしまいました。それから２時間後に目が覚め、診察室に呼ばれ説明を受けました。さっきまで寝ていたので、ボーっとした状態のまま、説明を受けました。その内容とは…!?　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）